



橋 戸

令和3年4月28日
学校だより 第2号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

改めて「GIGA」の話

校長 青木 俊哉

本校にも一人1台端末が配置され、数カ月が経ちました。端末が配置される前の12月号に、「GIGA は目の前に…」と題してお伝えしたところですが、新年度、子供たちは進級し、学年・学級や担任も変わりましたので、改めてこの間の状況も含め、一人1台端末(タブレット型PC)配布のねらいや活用の状況等をお知らせします。

このGIGAとは、「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字をとってGIGA(ギガ)スクール構想と名付けられています。義務教育段階の児童・生徒一人に1台、学習で活用できるタブレット端末等の電子機器を配置する計画で、社会全体にICTが活用され、情報化が推進された世界を生き抜く子供たちに必要な資質・能力を身に付けさせるために、文部科学省主導で進められている事業です。

この事業では、一人一人に配置された端末を、ツールとして(文房具のように)活用することにより、

- ◎情報活用能力を育成し、学びの基盤とする。 ◎動画や音声の活用を通して、興味を喚起し、理解を促進する。
- ◎情報収集、分析、まとめ、表現などの活動により、探究的な学習を効果的に推進する。 よう求められています。

練馬区では、全児童・生徒にChrome Book(Chromeブック)が貸与されました。テレビのCMでもよく見かける端末です。私たちが日常よく使うPCとは、若干キーやソフトの名称が違っていますが、子供たちは1月下旬から2月にかけて各学級で使い方を学び、実際に機器に触れ、操作することを通して、あっという間に身に付けました。その後は、授業での活用以外にも家庭学習や文書の配布など、学年・学級ごとの進め方で活用の幅を広げていきました。春休みから新年度を迎え、「ミライシード」の更新のため学習場面での利用を止めていましたが、ようやく作業終了の連絡が入り、2年以上の学年では、学校での活用を再開し、進められるようになりました。(1年生への配布は、しばらくお待ちください。)

タブレット型PCの効果的な活用に向け、本校では以下の6点を柱に取組を進める予定です。

- ① 学習用端末として…教室での学びを豊かに。思考・表現をつなげ、全体共有。個別最適化された学びの実現。
- ② 家庭学習用機器として…ミライシードなどのアプリを活用し、提出も容易に。学習の足跡も残せるように…。
- ③ (万が一の際)児童と担任をつなぐ場として…OnLine朝の会や課題の指示、回収。動画教材配信の可能性。
- ④ 情報モラル・セキュリティを学ぶ場として…教育ネットの開発した教材も利用。連携の成果を生かして…。
- ⑤ プログラミング教育の充実に向けて…端末を活用し、学年に応じた実践や教材開発を進める土台に…。
- ⑥ 家庭と学校の連携(ポータル)機能として…学校だよりや学年だより等発出文書の一部を配信。(出欠連絡等は検討中) 昨年度、教育ネットとの連携事業として試行した「お助けポータル」も継続が決定。(詳細後日連絡)

端末を活用した“新しい学び”と、“これまでの学び”を融合し、一人一人の(個の)学びと、学習集団の(全体の)学びを協働させることで、自分の力で取り組み、自分達でやり遂げた経験・実感・感動につながるよう、進めてまいります。